

Q. 借金はいくら減ったの？

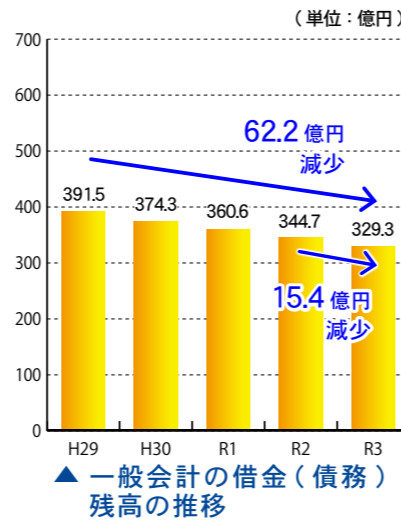
A. 借金は15.4億円減りました

小・中学校の大規模改修や消防車両の購入などのため、新たに一般会計で借金を行いましたが、全体では返済が進み、借金の残高は前年度より15.4億円、平成29年度末からは62.2億円減りました。



「ギモン？」

新たに借金することもあるんだね。今後、借金が増えることもあるのかな？



Q. 貯金はいくら増えたの？

A. 貯金は8.6億円増えました

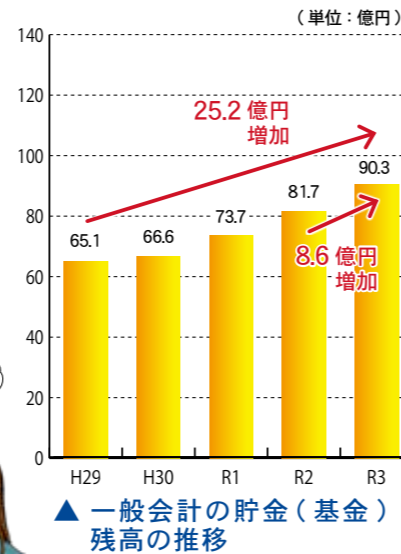
教育・子育て支援などに1.3億円、新型コロナウイルス感染症対策に0.3億円など、特定の事業目的に合計2億円を貯金から使いました。一方、収入に見合った支出に取り組み、4年連続で貯金を増やすことができました。引き続き、公共施設の老朽化など将来の負担に備えていきます。

貯金は使う目的ごとに積み立てています。これを基金といいます。事業ごとに将来の大きな支出に備えて基金を貯める一方、決算が黒字のときでも、目的のために必要に応じて、対象の基金からお金を使います。

貯金も徐々に増やしているね！もう心配いらなくらい貯金できたのかな？



「ギモン？」



三田市に1年間でどのくらいのお金が入って、どのくらい使われたのかを知っていますか？三田市のお財布事情は皆さんの生活に深く関わっています。将来にわたり安心して暮らしていくための大切なお金について、みんなで一緒に考えてみましょう。

なお、数字は全て端数計算して表記しています。

※決算の詳細は、市HP(右記2次元コード)や財政課窓口でご覧いただけます。

問い合わせ=財政課(市役所本庁舎3階 559-5018 FAX 563-1366)



一般会計・特別会計

三田市が直接行う行政サービスなどに使ったお金です。令和3年度決算をお知らせします。

令和3年度
決算

- 収支は黒字でした
- 借金は減りました
- 貯金は増えました

決算とは、その年の三田市の活動をお金の動きからみるもの

みんなの疑問「ギモン？」には、6頁でお答えします。



Q. 決算は黒字だったの？

A. 一般会計と特別会計*をあわせて13億円の黒字でした

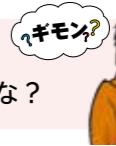
決算額には、新型コロナウイルス感染症対策など、国や県が決めた制度を市が行う予算として国・県からもらう支出金を含みます。支出金は事業実施にあたり不足がないよう交付され、制度に従い実施した後、未使用額(今年度4.6億円)は次年度に返還します。

会計名	歳入決算額(A)	歳出決算額(B)	差引額(C=A-B)	翌年度に繰り越すべき財源(D)	実質収支額(C-D)
一般会計	441億 112万円	422億 8,697万円	18億 1,415万円	9億 1,953万円	8億 9,462万円
特別会計	209億 9,836万円	205億 9,500万円	4億 336万円	0円	4億 336万円
合計	650億 9,948万円	628億 8,197万円	22億 1,751万円	9億 1,953万円	12億 9,798万円

*特別会計とは、対象事業が限定されている次の5つの会計のこと

- ①国民健康保険 ②公営墓地整備
- ③駐車場 ④介護保険 ⑤後期高齢者医療

このままずっと黒字が続くのかな？



※本特集に記載の決算見込みの内容は、9月の定例市議会に提出し、予算決算常任委員会が審議される前の情報です(9月16日時点)。

コロナ対策以外の主な事業

妊婦・産婦健診の助成
および産後ケア
5,351万円

保育施設の新設補助
(ウディタウンに新しく保育園が開所)
2億143万円

市ホームページリニューアル、
LINE公式アカウント導入
2,505万円

IT教育推進
(学習アプリや1人1台タブレット導入)
1億1,679万円

地域外出支援おでかけサポート
232万円

北神・三田地域の急性期医療の確保
に関する検討委員会の共同設置
502万円

ニュータウン再生調査研究
(フラワータウン再生ビジョン策定)
1,090万円

三田駅前Cブロック地区
再開発
1億2,730万円

Q2

新型コロナウイルス感染症対策以外では、どんなことにお金を使ったの？
子育て支援や都市基盤の整備、持続可能な交通ネットワークの構築などの事業を実施しました。子育て支援や子どもの教育に関する事業には、三田つ子応援基金から1億3千万円を活用しました。

コロナ対策の主な事業

子育て世帯臨時特別給付金
給付事業費
15億5,590万円

新型コロナウイルスワクチン
接種実施および体制確保事業
9億2,171万円

住民税非課税世帯等への
臨時特別給付金給付事業費
(コロナ禍で家計が急変した世帯含む)
6億1,020万円

市独自事業
小規模事業者応援助成金
(売上が減少した事業者への給付金)
1億1,180万円

子育て世帯生活支援特別給付金
(ひとり親世帯およびその他世帯分)
給付事業費 8,560万円

市独自事業
時短営業要請事業者協力金
6,578万円

Q1

新型コロナウイルス感染症の対策に
どれくらいのお金を使ったの？

感染症拡大を防止する事業、市民生活を支える事業、事業者などを支援する事業など、国の事業に加え、市独自事業も実施しました。これらには、国や県の交付金・補助金(37億5千万円)、さんだエール基金(3千万円)を活用しました。

企業会計

三田市が自ら経営する公営企業3事業の会計です。
令和3年度の決算をお知らせします。

① 市民病院事業

	収益的収支 (税抜)	資本的収支 (税込)
	主に、①医療行為などによる収入と②病院の維持管理経費などを中心としたお金	医療機器の更新や病院施設の建設改良経費などを中心としたお金
収入	97億 5,515万円 (入院・外来診療費など)	11億 4,807万円 (一般会計からの補助金など)
支出	89億 6,813万円 (人件費・診療材料費など)	16億 2,785万円 (医療機器の更新など)
差引	7億 8,702万円	△4億 7,978万円

収益的収支は、新型コロナウイルス感染症の影響が依然として継続する中で、入院および外来収益の増加により医療収支の改善を図り、さらに国や県からのコロナ関係の補助金により、引き続き黒字となりました。資本的収支は、デジタルX線一般撮影装置などの医療機器を更新するなど、救急医療をはじめとした急性期医療の安定的かつ継続的な提供に努めました。

② 水道事業

	収益的収支 (税抜)	資本的収支 (税込)
	水道水をつくるためのお金	水道施設などを整備・更新するためのお金
収入	28億 5,265万円 (水道料金など)	1億 2,604万円 (分担金や基金繰入金など)
支出	23億 7,428万円 (県からの水の購入費、維持管理費、修繕費など)	10億 7,085万円 (配水管や施設などの更新・工事費など)
差引	4億 7,837万円	△9億 4,481万円

安全な水道水を安定的に供給するため、令和3年度は水道管路の布設替工事の他、管路の耐震化や浄水場の機器更新などを実施しました。収益的収支は、給水人口・配水量・有収水量ともに減少しましたが、4億7,837万円の純利益を計上しました。

③ 下水道事業

	収益的収支 (税抜)	資本的収支 (税込)
	汚水をきれいにするためのお金	下水道施設などを整備・更新するためのお金
収入	28億 526万円 (下水道使用料など)	9億 6,016万円 (企業債など)
支出	26億 4,720万円 (処理場の維持管理経費など)	14億 9,594万円 (ポンプの取り換え費用など)
差引	1億 5,806万円	△5億 3,578万円

下水道事業は、家庭・事業所等から排出された汚水を処理することで、衛生的で快適な市民生活を支えています。収益的収支は、使用料改定や企業債支払利息の減少等により1億5,806万円の純利益を計上し、前年度比では1億4,592万円の増となりました。今後も持続可能な事業運営を行えるよう、より一層の事業の効率化や経費削減に努めます。

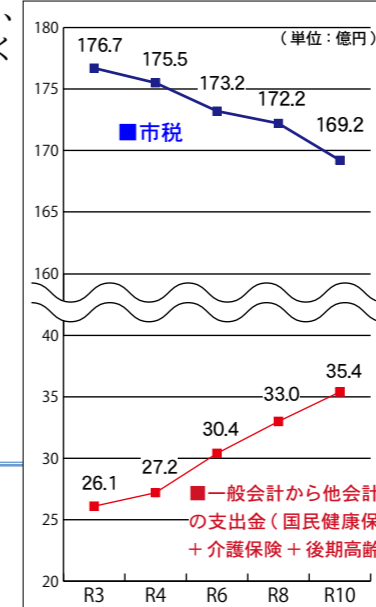
※いずれの事業においても、資本的収支の不足額は内部留保資金(減価償却費など現金支出を伴わない費用計上によって生じた資金)で補っています。

でも、これからの心配ごと・・・

収入が減る

■ 市税収入が減る 要因：人口減少・高齢化

令和3年度の市税収入は前年度より0.4億円減り、176.7億円になりました。特に人口減少・高齢化に伴う生産年齢人口の減少による個人市民税の減少が2億円と大きく、今後さらに減っていく見込みです。



なのに

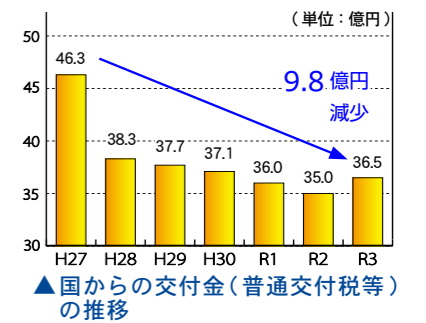
支出は増える

■ 社会保障経費が増える 要因：高齢化

高齢化が進むにつれて、医療や介護などにかかる社会保障経費は増えていく見込みです。

■ 国からの交付金が減っている

交付金は、全国市町村の行政サービスが一定水準になるように国から配分されるお金です。三田市への交付金は6年前より9.8億円減り、今後も大きく増える見込みはありません。



■ 貯金が減る・借が増える 要因：施設などの老朽化

人口急増に対応するため整備した公共施設や道路などの老朽化が一斉に進み、改修や維持管理にかかる経費の増大が見込まれます。これらは単年の収入のみで賄うことが難しいため、貯金の活用や借が必要になります。したがって、貯金が減り、借が増える可能性があります。

なので

人口減少にも負けないまちへ 将来を見据えた準備を進めています



農村集落の小都市から多様な機能を持つまちへと成長を遂げてきた三田市は、現在は成熟したまちに移行しつつあります。これからは社会の変化に対応し、人口減少下でも心豊かに住み続けられる成熟期のまちを目指すため「第5次三田市総合計画」を策定しました。この計画などに基づき、健全な財政を維持するため収入に見合った支出に努めながらも、状況を見極め必要な投資を行うことで、人口減少にも負けない、次世代へつなぐまちづくりを進めます。

① 健全財政と計画的な貯金

適切な時期に必要な投資ができるためには、目的を持った貯金(基金)の準備が必要です。将来の支出を考えると、現在の貯金では潤沢とは言えません。今後必要となる資金を予測し、収支の見合った健全な財政運営への取り組みに努め、計画的に貯金を積み立てていきます。

② 将来の負担を見据えた投資

いつまでも住み続けられるまちの活力を維持するため、まちの再生や都市機能の充実、新しい施設の建設など将来への投資は不可欠です。大きな投資は次世代の市民も利益を受けるため、今の世代だけで負担することのないよう借金して行う場合があります。ただし、過大な負担を残さないため投資の「選択と集中」を行い、次世代へつなぐまちづくりを進めます。

これからの見据えた投資

- ・新ごみ処理施設の整備
- ・再開発による都市基盤の整備など
- ・スマートシティ化
- ・ゼロカーボンシティ化